



平成 17 年 3 月 7 日

受益者の皆様へ

三井住友アセットマネジメント株式会社

『三井住友・日本株オープン』運用見直し及び運用担当者交替のお知らせ

謹啓 早春の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素より、『三井住友・日本株オープン』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、平成 6 年 9 月の設定以来、個々の企業の成長性や収益性を独自の視点から分析し投資を行うことにより、信託財産の成長を目指して運用して参りました。しかしながら、ここ数年にわたる市場環境の変化にはまことに激しいものがあり、ファンド運用成績の引上げ・向上を図っていくためには、より一層迅速かつ的確に投資判断を行っていく必要があると考え、そのために具体的な運用改善策の検討を進めて参りました。

その結果、これまでの運用基本方針は、これを維持しつつも、従来にも増して広範かつ有用な情報を効率的に集中・活用することにより、柔軟かつ幅広く収益機会をとらえることを通じて、運用成果の向上を図ることが最善であるものと判断致しました。その実現のために、弊社内調査・分析機能を幅広く活用した体制再構築に向けた見直しを行い、平成 17 年 4 月より実施することと致しました。

今般の運用体制見直しを機に、運用担当者につきましても一部変更・交替を行うこととし、これまで当ファンドの運用を担当して参りました大島和隆に替り、後任の責任者として山口健を起用いたします。従来より当ファンドの運用に従事しております芝田達裕・金本直樹と力を合せて、運用成績引上げに向け全力を傾注して参ります。また、弊社全体でも、社内関係部署の分析・評価機能をこれまで以上に積極的に活用する等、全社を挙げたバックアップ体制を整え、運用成果の結実に向けて邁進する所存でございます。

弊社役職員一同、受益者の皆様に最高の運用商品をご提供することを目指し、引き続き努力を重ねて参りますので、今後とも当ファンドに対するご支援を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

本件に関するご照会先

三井住友アセットマネジメント 【フリーダイヤル】 0120-88-2976 (受付時間 :平日 9:00 ~ 17:00)

## 【付】運用見直し及び運用担当者の交替に関する Q & A

質問1．なぜ運用の見直しを行うのですか？

【回答】

過去数年にわたる国内外の経済環境・株式市場の激しい変化に対して、よりの確に対応し、受益者の皆様のご期待に応える運用成果を着実に挙げることを目的として、運用の見直しを実行することといたしました。

質問2．具体的に何を見直すのですか？

【回答】

まず、当ファンドの“運用の基本方針”には、全く変更はございません。“運用の基本方針”を実行する段階におきまして、担当運用チームが社内関連部署の様々な調査・分析機能を、これまで以上に活用して、投資戦略の立案・遂行に役立てて参ります。

また、これまで当ファンドの運用を担当して参りました大島和隆に替って山口健を起用します。従来から運用を担当しております芝田達裕、金本直樹を含めた3名を中心とした運用体制を、全社を挙げてバックアップする体制を構築致します。

質問3．運用方法強化や担当者交替により、現在の組入銘柄が大きく変わりますか？

【回答】

今般の運用方法強化におきましては、有用な情報をより広範に収集するために社内の情報を効率的に活用すること、特に個別銘柄選択につきまして、運用担当者自らによる企業訪問・調査を中心としつつ、社内アナリストの分析・評価を補完的に活用することとしております。

従いまして、運用収益を獲得する目標に向かって、組入銘柄の緩やかな入替・増加は有り得るものと考えます。

一方、担当者の交替が、直ちに組入銘柄の変更の要因となるものではございません。ただし、ファンド組入銘柄は、経済・市場見通し、株価水準等、様々な要素を加味して選択・調整致しますので、今般の見直しにかかわらず、随時“運用の基本方針”に沿った入替を行ってまいります。

質問4．今回の運用見直しに伴い、信託約款 (の重大な内容)は変更されますか？

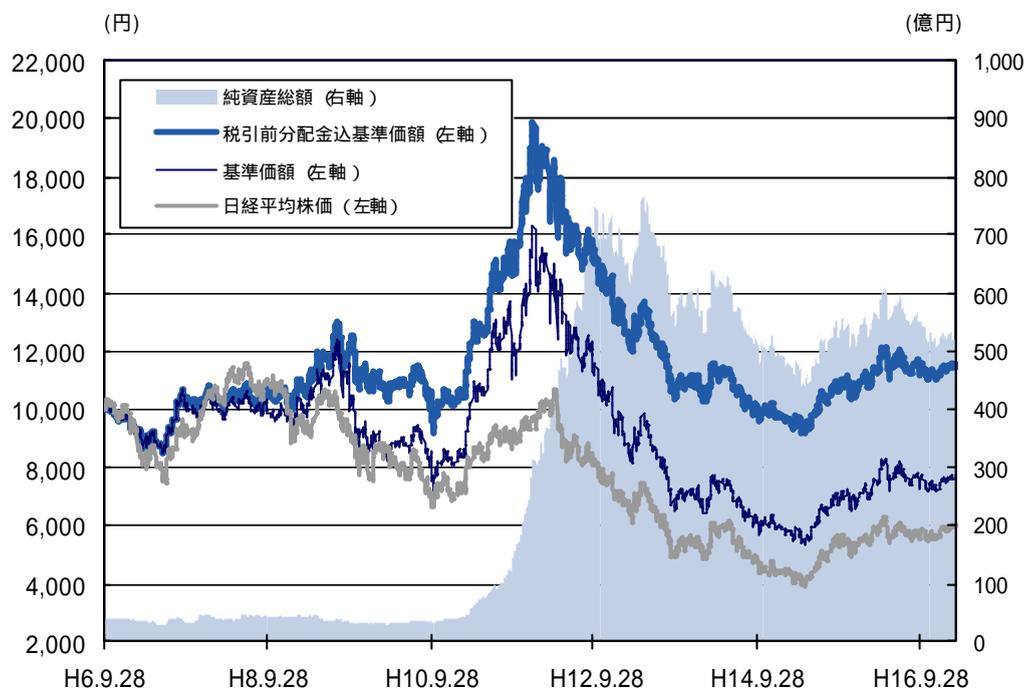
【回答】

今般の運用見直しは、前述のとおり、当ファンドの“運用の基本方針”に影響を与えるものではなく、また“運用の基本方針”部分以外につきましても、信託約款の内容に変更手続きはございません。

以 上

## 【参考1】 三井住友「日本株オープン」運用状況

平成17年2月末現在までの、基準価額の推移並びに騰落率（税引前分配金込）は以下の通りとなっております。



- 基準価額は、信託報酬（年率0.84%（税抜き年率0.80%））控除後です。
- 日経平均株価については、ファンド設定前日を10000とした指数を使用しております。
- 当ファンドは日経平均株価をベンチマークとするものではありません。
- 上記グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。また、本件商品を日本経済新聞社が保証するものではありません。

	基準日	ファンド	日経平均株価
3ヶ月	H16.11.30	5.6%	7.7%
6ヶ月	H16.8.31	0.5%	5.9%
1年	H16.2.27	6.3%	6.3%
3年	H14.2.28	9.4%	10.9%
5年	H12.2.29	-47.7%	-41.2%
設定来	H6.9.28	15.7%	-39.7%

騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後です。

上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。



## 【参考2】 ファンド・マネジャー略歴

### 山口 健（やまぐち たけし）

1987年より、国内系信託銀行にて企業年金、公的資金の外国債券運用、外国株式運用に従事。その後、英国運用会社に派遣され外国債券運用を経験し、帰国後は公的資金運用部にて基幹ファンドの日本株式運用を担当。1996年、国内系投信会社に移り、日本株式投信アクティブ運用に従事し、大型株から中小型株まで幅広い銘柄の運用を担当。2000年にベンチャー企業設立参画のため同社退職。

2001年7月に「ベンチャービジネス証券投資法人」設立に伴い、弊社前身のスミセイグローバル投信入社。同投資法人の上場株式ポートフォリオ運用を担当。現在は上記のほか、中小型株式ファンド運用、海外投資家への日本株投資助言を担当する等、豊富な運用経験と良好なパフォーマンスを実現しています。

### 芝田 達裕（しばた たつひろ）

1987年国内系証券会社入社。2000年まで在籍し、国内営業、米国駐在、本社エクイティ部を歴任。7年間にわたる米国駐在中は、米国株リサーチ・セールス部門の責任者を務め、米国企業及び経済動向調査などに精通。

2000年4月、弊社前身のさくら投信投資顧問入社し、調査及び投資判断に従事。特に、海外の視点から見た日本企業の分析、外国株式の銘柄選定、ポートフォリオ構築等において主導的役割を果たしています。

### 金本 直樹（かねもと なおき）

1995年より、弊社前身のさくら投信に出向し、以降トレーディング業務、ポートフォリオ管理から国内企業調査まで、一貫して日本株式の運用業務に従事。1996年4月より6ヶ月間、米国アライアンス・キャピタル・マネジメント社に派遣され、米国資産運用業務を経験。その後、日本株式およびCBファンドの運用を担当しています。